

三浦市立旭小学校

研究テーマ：すすんでかかわり、高め合う子 ～子どもたちが夢中になる単元づくりを通して～

1 実践の目的

「高め合う力」「自律する力」「行動力」、この3つの力を今の本校の児童に身につけてほしい力であると考え、「生活科」と「総合的な学習の時間」で昨年度から研究を進めている。まだまだ成果として十分なものは上げられていないこと、昨年度初めて研究して分かってきたことを踏まえて、今年度も同じ教科、同じ研究テーマで2年目の研究を進めていこうと考えた。

研究テーマを達成するための手立てとして、①【一人ひとりの思いを必ず引き出しながら課題を設定する】②【一人ひとりの思いを把握する】【振り返り】の2点を設定した。

2 実践の内容

(1) 校内研究の組織体制

低・中・高学年に分かれて指導案検討、授業研、事後検討を行い、校内研究を進めた。また研究推進委員会を中心に、校内全体で「生活科」「総合的な学習の時間」の年間指導計画を共有し、子どもたちが夢中になる単元づくりについて検討した。

(2) 校内研修会

講演会では、鎌倉女子大学短期大学部准教授である相澤昭宏先生を講師としてお招きし、「生活科」「総合的な学習の時間」における単元づくりについてお話していただいた。さらに授業実践をした際にも来校していただき、指導・助言をいただいた。

(3) 手立て①

【一人ひとりの思いを必ず引き出しながら課題を設定する】

子どもによる主体的な学習を生み出すためには（学習にすすんでかかわるためには）、子どもの思いや願いを重視し、適切に取り扱うことが大切である。しかし、それだけでは学びの質を高めることが難しいため、教師がその単元で学ばせたいことや、育てたい資質・能力を明らかにすることも大切であると考えた。また、価値ある体験が可能であるか等、材についても十分吟味しておくことも重要である。

この3点をうまくすり合わせながら、課題を設定していくことにした。

(4) 手立て②

【一人ひとりの思いを把握する】【振り返り】

高め合うためには、他者との関わりが必要不可欠である。教師が予め子どもの思いを把握し、どの場面で、どの子の考えを焦点化すべきかを考えておき、より多くの考えに触れることができるような授業を展開していくようにする。

また友だちと交流し合ったあとは、振り返りの時間を設けるようにする。自分の学びを振り返ることで、どのように考えが深まったのか、新たにどんな疑問が生まれたのか等を整理することができる考えた。

3 実践の成果

(1) 校内研究の組織体制

低・中・高学年で分けたことにより、少人数でタイミングを合わせやすく気軽に検討ができた。また、目指したい子どもの姿を共有し研究を進めることができた。

(2) 校内研修会

講演会では、子どもたちが夢中になる単元づくり、授業づくりだけでなく、指導案の書き方、本校の授業に期待することまでお話ししていただき、多くのことを学べた。

(3) 手立て①

【一人ひとりの思いを必ず引き出しながら
課題を設定する】

体験活動や材と十分に触れ合う時間の確保、専門家とのかかわりが充実したことにより、自然と子どもの思いが発露する場面が多く見られた。また、材も価値ある「人・もの・こと」であるかを吟味しながら設定することができた。

さらに、発信に向けて課題を設定する場面では、振り返りシートに書いた一人ひとりの思いを大切に課題設定したことで、活動がとても活発になった。



＜3年生＞わかめの種差しを漁師さんに
教えていただいている様子



＜2年生＞町探検で農家さんにお話を
伺っている様子

(4) 手立て②

【一人ひとりの思いを把握する】【振り返り】
一人ひとりの実態、思いをしっかりと把握することで、考えさせたいことやその場に合った助言・指導を事前に考えることができ、話し合い等の交流の時間が充実した。

また振り返りを何度も行うことで、自身の学習がどう積み重なっていったかを確認できただけでなく、自信をもって話せるようになった。

4 今後の展開

来年度も引き続き、「生活科」と「総合的な学習の時間」を中心に研究を進めていく。

研究テーマを達成するための手立てである振り返りに関しては、書かせる際に視点を設け、よりねらいに迫った振り返りをさせていきたい。

また、学年を越えた関わりを取り入れたり、学習したものを教室内だけではなく、校内にも掲示したりしていく等、お互いが学習に関与していける環境をつくっていく。

これからも「すすんでかかわり、高め合う子」を目指し、職員全体で子どもたちが夢中になる単元づくり、授業づくりを行っていききたい。